

◇ 全産業の動き ◇

〔業況のDI〕 製造業・小売業・サービス業が改善、建設業・卸売業が横ばい。

来期予測は、サービス業が改善、製造業・建設業・小売業が横ばい、卸売業が悪化を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲29.6	↗	▲16.0 (▲10.5)	→	▲16.0
建設業	0.0	→	4.6 (0.0)	→	0.0
卸売業	▲7.7	→	▲11.7 (0.0)	↘	▲17.6
小売業	▲26.6	↗	▲14.3 (▲29.5)	→	▲14.3
サービス業	▲26.3	↗	▲17.6 (3.3)	↗	▲5.8
全産業	▲19.2	↗	▲10.6 (▲6.1)	→	▲10.6

〔売上高のDI〕 製造業・卸売業が改善、サービス業が横ばい、建設業・小売業が悪化。

来期予測は、卸売業・小売業・サービス業が改善、製造業が横ばい、建設業が悪化を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲14.8	↗	▲4.0 (0.0)	→	0.0
建設業	20.0	↘	4.5 (4.0)	↘	▲13.7
卸売業	▲30.8	↗	11.8 (33.3)	↗	35.3
小売業	0.0	↘	▲14.3 (▲23.5)	↗	0.0
サービス業	▲15.7	→	▲11.8 (36.6)	↗	5.8
全産業	▲7.4	↗	▲2.1 (11.4)	↗	4.3

〔採算のDI〕 製造業・建設業・サービス業が改善、卸売業・小売業が横ばい。

来期予測は、製造業が改善、卸売業・小売業が横ばい、建設業・サービス業が悪化を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲37.1	↗	▲24.0 (▲18.4)	↗	▲12.0
建設業	0.0	↗	9.1 (▲8.0)	↘	▲9.1
卸売業	▲30.8	→	▲29.4 (▲4.8)	→	▲29.5
小売業	▲26.6	→	▲23.1 (▲41.2)	→	▲21.5
サービス業	▲26.3	↗	▲11.8 (10.0)	↘	▲23.5
全産業	▲24.5	↗	▲14.9 (▲10.7)	→	▲17.9

◇ 産業別の動き ◇

※コメントは回答に基づき要約しています。

【製 造 業】 景気ムード…【厳しい状況】

『製紙・紙加工』…「業務用家庭紙は需要が減少している」「家庭紙は供給過多で値上げ交渉がしにくい。一方、PPC紙はアスクルへのサイバー攻撃の影響で受発注が滞った分、一時的に生産量が増加している」「製紙および紙加工・販売業界では、印刷用紙などの需要が毎年5～9%減少しており、売上減を補うのが困難な状況である」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「価格下落の見込みである」「長期的には売上の減少が予想される」「値上げの打ち出しが浸透すれば多少は好転する」「売上減少が見込まれる中、販売価格を修正して利益を確保したい」とのコメントが寄せられた。

『衣料』…「奈良などの伝統的な靴下産地では、後継者不足や海外製品との競合により生産量が大幅に減少しており、地場産業としての再生が課題である」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「高付加価値製品やブランド力による差別化が必須である。Eコマースやデジタル戦略が今後の競争力に直結すると思われる」とのコメントが寄せられた。

『機械器具』…「弊社は製茶機器を取り扱っているが、茶の在庫が品薄になり、秋番茶の仕入値が一番茶よりも高い状況である。先行きは不透明であり、業況はとにかく良くない」とのコメントが寄せられた。

『金型部品』…「自動車関連は今後も厳しい状況が続く予想であり、来季もあまり期待ができない」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「自動車以外の産業が好調なため、現状を維持しつつ、さらに非自動車産業へのアプローチを強化していきたい」とのコメントが寄せられた。

『金属加工』…「トランプ関税の問題で滞っていた自動車部品や工作機械部品が動き出したことで、安定した受注が見込まれる。しかし、エネルギー費や消耗品等の価格上昇が懸念材料である」「自動車産業の不振が全体的に悪影響を与えている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「裾野の広い自動車産業が回復しない限り、今後の見通しは暗い」とのコメントが寄せられた。

『自動車部品』…「今期は金型業界全体の仕事量が一時的に減少した」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「来期は、今期が少なかった分の反動で仕事量が急激に増えると思われる」とのコメントが寄せられた。

『食料・飲料』…「世界的な抹茶ブームにより生産者が抹茶栽培に移行した影響か、煎茶の生産量が激減し、価格が異常に高騰している。生産者の減少や後継者不足も深刻である」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「来年も茶価は維持されると思うが、下落のリスクを見据えて慎重に行動したい」とのコメントが寄せられた。

『食料品』…「価格改定は実施できたが、販売数量の減少により既存売上は下降トレンドにある。高付加価値商材か激安商材への需要の二極化が進んでおり、新規獲得がカギである」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「2026年も価格改定が予定されており、しばらくは落ち着かない状況が続くと考えている」とのコメントが寄せられた。

『繊維加工』…「同業者の廃業が相次ぎ、地場産業としての形態が保てなくなっている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「引き合いはあっても、人員不足や

原材料費の上昇により、受注を受け入れられないケースが増えるのではないかとコメントが寄せられた。

『その他』…「金型部品の業界が厳しいため、できるだけ利益の出る価格で仕事を願うようにしている」「業務用家庭紙の輸入品増加により売上が減少している」「夢の大橋には連日多くの人を訪れている。富士市はもっと観光に力を入れるべきである」とコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	16.0	52.0	32.0	▲16.0	横ばい
売上高	32.0	32.0	36.0	▲ 4.0	横ばい
採 算	16.0	44.0	40.0	▲24.0	上 昇

【建設業】 景気ムード…【低調】

『総合建設』…「インフラの老朽化対策などで需要が拡大する一方、資材高騰や人手不足が事実上の課題である。DX 推進による生産性向上と、体力のある体制作りが求められている」「公共・民間ともに需要面に大きな変化はない」「設備投資の鈍化による過当競争が激化している」とコメントが寄せられた。今後の見通しについては「業界全体は緩やかに成長しているが、大きく伸びることはない。DX を推進して前に進む必要がある」「積極財政路線への転換による経済の安定と、その効果が徐々に現れることを期待したい」とコメントが寄せられた。

『一般住宅関連』…「建築就業者の減少と高齢化が深刻である」「物価高による価格高騰で客の購買意欲が減退しており、今後の影響が懸念される」「現状は順調である」とコメントが寄せられた。今後の見通しについては「住宅ローンの返済期間が30年～50年と長期化することへの不安がある。子育て世代への支援が充実すれば、働く母親も楽になるだろう」とコメントが寄せられた。

『建設関連』…「例年なら決まっているはずの来年の仕事について、年内に決まった受注分が少ない」とコメントが寄せられた。

『設備工事』…「富士市内での設備投資が停滞気味である」「公共工事の現状に課題がある」とコメントが寄せられた。今後の見通しについては「人材不足による競争力低下と過当競争により、今後の見通しは厳しい」「中国の動向が建設業界にも時間差で影響を及ぼすのではないかと」「人件費や交通宿泊費の高騰、慢性的な人材不足が課題である」とコメントが寄せられた。

『造園土木工事』…「県内全域で人材が不足している」「年末の庭木手入れは、雨が少なく順調に進んだ」とコメントが寄せられた。今後の見通しについては「公共工事の発注が全くなく、状況は良くない」とコメントが寄せられた。

『土木関連』…「一部業者による価格競争が激しく、大変な状況である」とコメントが寄せられた。今後の見通しについては「10年前のような仕事量が受注できればと考えている」とコメントが寄せられた。

『その他』…「クリスマスマーケットなどのイベントは夜も楽しめて良い。12月だが年末の実感が薄い」とコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	9.1	86.4	4.5	4.6	横ばい
売上高	22.7	59.1	18.2	4.5	下 降
採 算	18.2	72.7	9.1	9.1	下 降

【卸 売 業】 景気ムード…【 低 調 】

『機械器具』…「仕入価格の上昇が続き、案件減少に伴い同業との競争も厳しくなっている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「対米・対中関係の不透明さからさらに悪化する懸念がある。人材確保の難しさから、ロボットや DX の需要はさらに高まるのではないか」とのコメントが寄せられた。

『金属部品』…「従来の経営構造を変えられない企業の業績が悪化しつつある」「異常な円安が輸入施策にマイナス影響を及ぼしている。現政権は円安是正に消極的に見え、収支のさらなる悪化が懸念される」とのコメントが寄せられた。

『建築材料』…「4月の建築基準法改正に伴う確認審査の大幅な遅れにより、全国的に新築上棟が滞った」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「確認審査の遅れが徐々に解消され、少しずつ着工物件が出てきている」とのコメントが寄せられた。

『工業薬品』…「厳しい経済環境が続くと思われる。家庭紙業界では各社が在庫を抱え、生産調整中である」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「金利上昇の影響が懸念される。また、手形の電子化により事務負担は軽減されるが、金融相場は激しくなるだろう」とのコメントが寄せられた。

『再生資源』…「円安や AI 需要により銅の国際価格が上昇し、スクラップ価格も高値を追っている。一方、製造業・建設業向けの鋼材需要は振るわず、価格は弱含みである」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「銅の高騰によりアルミへの代替が進む可能性がある。紛争地域の停戦後は、復興需要によりスクラップ不足が予想される」とのコメントが寄せられた。

『食品』…「業界全体のパイは変わらず、大型スーパーや FC 店との価格競争が激化している。効率的な商材提案が必要である」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「M&A が加速し、グループ化がさらに進むと思われる」とのコメントが寄せられた。

『製紙原料』…「寡占化による生産性低下と値上げの悪循環が起きており、新たな需要を見逃しているように感じる」「産業古紙の減少は痛手だが、半導体関連の流通により何とか維持している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「固定観念に捉われず、自社の立ち位置を再検討したい。零細企業として、現状の雇用を維持できることを願っている」とのコメントが寄せられた。

『包装資材』…「商品の仕入価格の上昇が続いている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「コンパクトサイズのフィルム包装ティッシュなど、新しい形態の製品が増えている」とのコメントが寄せられた。

『その他』…「自動車業界の不調が深刻である」「東部エリアでの人員削減が経営者のマインドを萎縮させている」「紙の必要性を再定義することで、新たな需要も見えてきている」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	5.9	76.5	17.6	▲11.7	下 降
売上高	35.3	41.2	23.5	11.8	上 昇
採 算	11.8	47.1	41.2	▲29.4	横ばい

【小 売 業】 景気ムード…【厳しい状況】

『衣料品』…「冬の冷え込みにより防寒着が欠品し始めている。また、地震による需要動向にも注意が必要である」「高齢化により実需要が減少しており、生産現場の閉鎖も相次いでいる」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「好転する要素が少ない」とのコメントが寄せられた。

『医療器具』…「少子化による需要減と、物価高に伴う買い控えが発生している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「低価格帯商品の需要が増える予想である」とのコメントが寄せられた。

『家電』…「防犯電話機の補助金制度などが、有意義な消費につながるのではないか」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「冬場に向けて暖房機器の品不足が起きないように、販売力を強化したい」とのコメントが寄せられた。

『各種食料品』…「異常気象により季節商品の動きが鈍い。一方で、消費者が物価高を受け入れ始め、賃上げの効果も浸透しつつあると感じる」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「年末年始に向けて明るい兆しがある。材料価格の安定に期待したい」とのコメントが寄せられた。

『自転車』…「業界全体の景気は依然として良くない」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「最大の需要期に向けて、業界全体が好転することを願っている」とのコメントが寄せられた。

『生花』…「生産量が不足しており、景気不安から消費者の財布の紐も固い」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「政府の経済対策が転機になる可能性がある」とのコメントが寄せられた。

『日用品・雑貨』…「少子化の影響で引き続き厳しい。特段の変化は見られない」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「中国の動向に大きく左右される。今期同様の推移となるだろう」とのコメントが寄せられた。

『その他』…「富士市の産品を扱うお土産屋がないのが残念である。市長選後の新しいリーダーや、自転車通行空間の整備、再開発による人の流れの変化に注目している」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
--	-----	-----	-----	-------	------

業況	21.4	42.9	35.7	▲14.3	横ばい
売上高	28.6	28.6	42.9	▲14.3	上昇
採算	15.4	46.2	38.5	▲23.1	横ばい

【サービス業】 景気ムード…【低調】

『クリーニング』…「消費の冷え込みが需要に影響している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「物価高騰によるコスト増を価格に転嫁しにくい状況が続いている」とのコメントが寄せられた。

『屋外広告・イベント』…「最低賃金が上昇しているにもかかわらず、過当競争のため受注金額を上げられない」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「石油関連製品の価格が安定しない限り、厳しい状況が続く」とのコメントが寄せられた。

『各種食料品』…「中国からの旅行者減少は、過剰だった状況が正常化するものと前向きに捉えている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「適切な利益を確保し、それを給料に反映できる社会の仕組み作りが必要である」とのコメントが寄せられた。

『広告デザイン』…「コロナ禍後も、中小企業を取り巻く景況感は以前の水準に戻っていない」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「高市政権による景気浮揚が、末端の企業まで波及することを願っている」とのコメントが寄せられた。

『観光バス』…「バス料金の見直しによる単価上昇は人材確保には追い風だが、将来的な需要低下が心配である」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「需要低下への懸念が残る」とのコメントが寄せられた。

『専門サービス』…「過当競争である。後継者不足や経営者の高齢化により廃業や倒産が増加しており、デジタル化への対応の可否が明暗を分けている」「深刻な人材不足により、雇用の維持に多大な努力を要する」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「積極財政による大企業の成長には期待できるが、中小企業を相手とする我々は、デジタル化や人材不足への対応を怠ればさらに厳しくなるだろう」とのコメントが寄せられた。

『不動産』…「土地処分の要望は増えているが、分譲地の買い手が少なく在庫が増加傾向にある。事業者は慎重な姿勢を崩していない」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「資材価格の高騰などが住宅ローンに与える影響を懸念している」とのコメントが寄せられた。

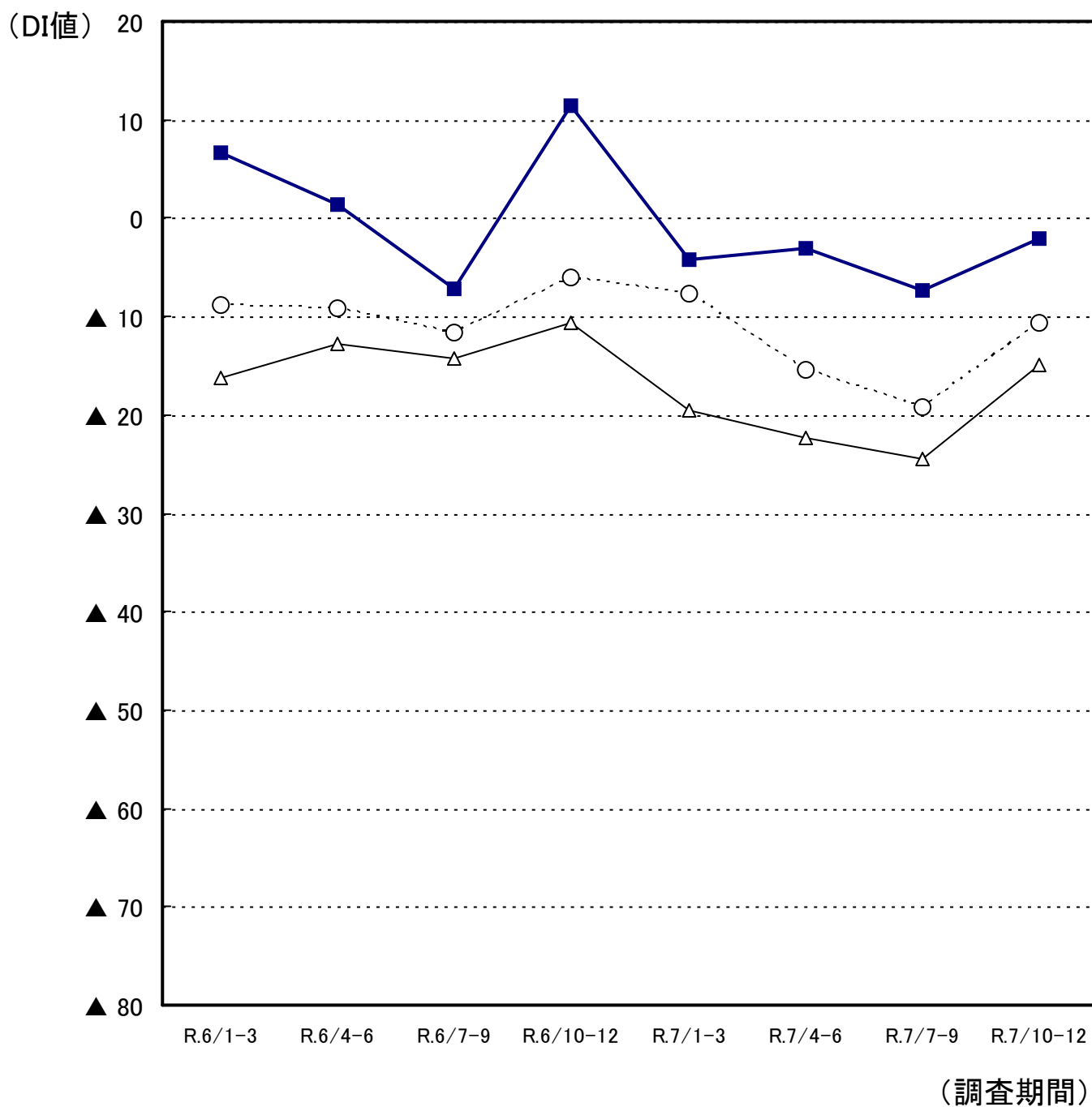
『旅館・ホテル』…「スポーツ関連の動きが活発で、来季は好転するとみている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「インバウンド需要の動向や食材費の高騰が懸念材料である。価格転嫁が難しい点が苦境を招いている」とのコメントが寄せられた。

『その他』…「新富士駅の切符売り場の混雑緩和など、観光客向けの改善が必要である。商店の廃業による更地の増加など、まちの活性化が難しい時代になっていると感じる」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期DI	来期予測
業況	11.8	58.8	29.4	▲17.6	上昇
売上高	17.6	52.9	29.4	▲11.8	上昇
採算	17.6	52.9	29.4	▲11.8	下降

全産業主要調査項目の 前年同期比DI推移状況

■ 売上 ○ 業況 △ 採算

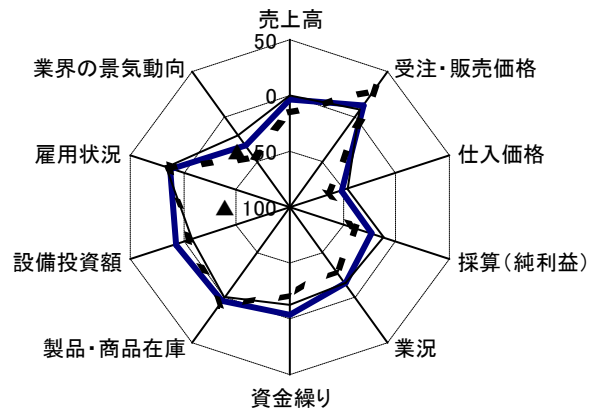


レーダーチャート

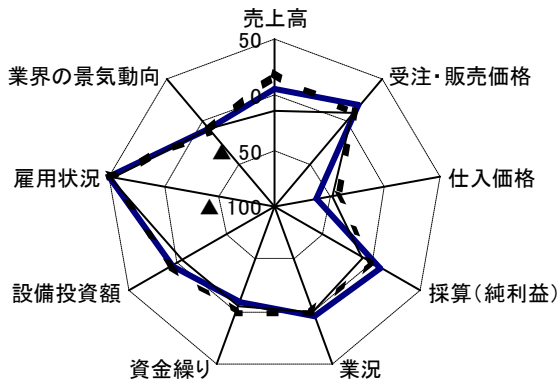
売上高	増加・減少
受注・販売	上昇・下降
仕入価格	下降・上昇
採算	好転・悪化
業況	好転・悪化
資金繰り	好転・悪化
製品・商品在庫	減少・増加
設備投資額	増加・減少
雇用状況	不足・過剰
業界の景気動向	好転・悪化

前年同期比	———
来期予測	———
前回調査時	- - - - -

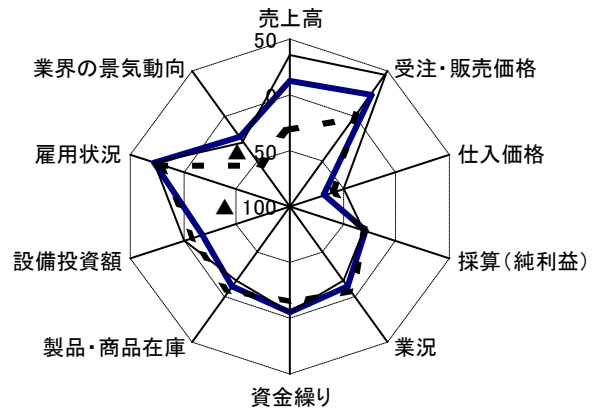
【製造業】



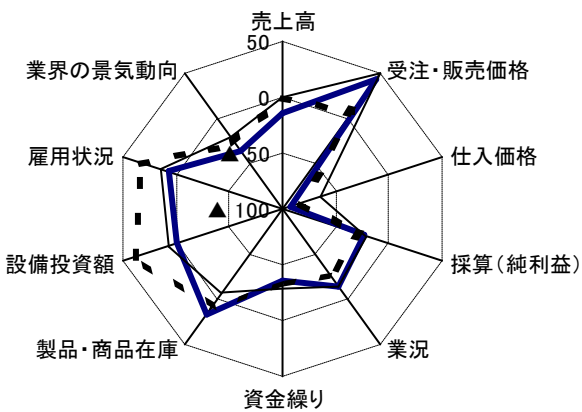
【建設業】



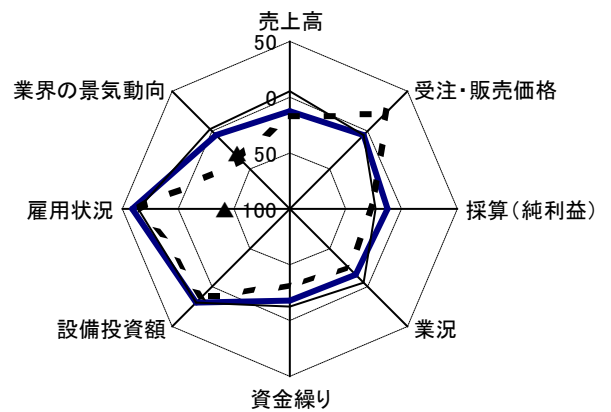
【卸売業】



【小売業】



【サービス業】



◇ 経営上の問題点 ◇

産業別	上位回答項目
製造業	<p>1 位 設備老朽化</p> <p>2 位 人材不足</p> <p>3 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>その他 売上減に伴う利益減</p>
建設業	<p>1 位 人材不足</p> <p>2 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>3 位 人件費高騰</p> <p>その他 過当競争／人員不足／設備老朽化</p>
卸売業	<p>1 位 人件費高騰／設備老朽化</p> <p>2 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>3 位 販売価格値上げ難／人員不足</p> <p>その他 人材不足</p>
小売業	<p>1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>2 位 売上減に伴う利益減</p> <p>3 位 販売価格値上げ難</p> <p>その他 売上、利益減による資金圧迫</p>
サービス業	<p>1 位 人材不足</p> <p>2 位 人件費高騰／設備老朽化</p> <p>3 位 人員不足</p> <p>その他 その他の需要の低迷</p>

最近の静岡県金融経済の動向

公表日（2025年12月24日）

日本銀行静岡支店

（経済面）県内の景気は、一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している。この間、25/12月短観をみると、企業の業況感は改善している。最終需要の動向をみると、公共投資は高水準で推移している。設備投資は増加している。個人消費は、物価上昇などの影響がみられるものの、底堅く推移している。輸出は横ばい圏内の動きとなっている。住宅投資は減少している。こうしたもとで、企業の生産は、横ばい圏内の動きとなっている。雇用・所得環境は、緩やかに改善している。消費者物価（除く生鮮食品）は、前年を上回っている。

（金融面等）預金は、前年を上回っている。貸出は、前年を上回っている。貸出約定平均金利（総合・ストックベース、地銀・第二地銀）は、前月比横ばいとなっている。企業倒産（負債総額100万円以上）は、概ね感染症拡大前の水準となっている。

1. 需要項目別の動向

※前回からの変化 改善 ↗ 横ばい → 悪化 ↘

(1) 個人消費(前回からの変化) → 物価上昇などの影響がみられるものの、底堅く推移している。

百貨店・スーパー売上高は底堅く推移している。コンビニエンスストア販売額は底堅く推移している。ドラッグストア販売額は増加している。家電販売額は緩やかに回復している。新車登録台数・販売台数は持ち直している。旅館・ホテルの宿泊数は一部に弱めの動きもみられるが、横ばい圏内の動きとなっている。

(2) 公共投資(前回からの変化) → 高水準で推移している。
(公共工事請負金額前年比：25/10月▲9.2%→25/11月▲18.5%)

(3) 設備投資(前回からの変化) → 増加している。
(短観・設備投資額：24年度計画7.2%→25度計画24.2%)

(4) 住宅投資(前回からの変化) → 減少している。
(新設住宅着工戸数前年比：25/9月3.2%→25/10月▲13.7%)

(5) 輸 出 (前回からの変化) → 横ばい圏内の動きとなっている。
(輸出額前年比：25/10月28.5%→25/11月8.7%<速報値>)

清水港、田子の浦港、御前崎港、静岡空港の4港合計

2. 生産、雇用・所得、物価の動向

(1) 生産(前回からの変化) → 横ばい圏内の動きとなっている。

(鉱工業生産指数・生産<季節調整済>前月比：25/8月1.7%⇒9月▲0.4%<速報値>)

自動車・同部品、化学は横ばい圏内の動きとなっており、二輪車・同部品は持ち直している。食料品、はん用・生産用・業務用機械、紙・パルプ、楽器は弱めの動きとなっており、電気機械は回復している。

(2) 雇用・所得(前回からの変化) → 緩やかに改善している。

(有効求人倍率 季節調整値：25/9月1.04倍⇒25/10月1.06倍)

(3) 物 価 前年を上回っている。

(消費者物価指数(除く生鮮食品)：前年比25/10月3.3%⇒25/11月3.2%)

3. 企業倒産、金融面の動向

(1) 企業倒産 . . . 概ね感染症拡大前の水準となっている。

(25/11月、負債総額10百万円以上)をみると、倒産件数(18件<前年比：38.4%>)
負債総額(31億円<同：132.5%>)

(2) 預 金 前年を上回っている。(前年比：25/6月末+0.7%⇒25/7月末+0.4%)

(3) 貸 出 前年を上回っている。(前年比：25/6月末1.6%⇒25/7月末1.9%)

(4) 貸出約定平均金利 . . . 前月比横ばいとなっている。

(地元地銀・第二地銀4行ベース、総合・ストックベース水準：25/9月1.543%⇒25/10月1.543%)

以 上